

第1回院内災害訓練の報告会を開催しました



1月31日(火)18時より、昨年11月に中国地区DMA T(災害派遣医療チーム)と連携して行われた院内災害訓練の報告会を臨床大講堂において開催しました。

今回の訓練目的は、災害対策マニュアルに沿って訓練を行い、検証結果に基づきマニュアル及びアクションカード(行動指標カード)の見直しを行うとともに、教職員の災害に対する意識を高めるものです。

森田副院長(安全管理担当)【対策本部副本部長】、高度外傷センター下条助教【トリアージセンター長】、高度外傷センター比良講師【DMA T 参集拠点本部長】から、各セクションの訓練状況、問題点及び今後の改善点について報告がありました。対策本部・各救護所の設置場所、診療コストの算定体制、教職員の安否確認体制、輸液・輸血製剤の確保など、多数の問題提起があり、活発な意見交換が行われました。

報告会の総括として、井川病院長より「訓練参加者からのアンケート及び今回の報告会での提案等を踏まえて、今後も訓練を継続して行い、地域の災害医療の拠点としてより一層災害対策の充実を図っていきたい」と今後の抱負が述べられました。



活発な意見交換が行われた報告会の様子



今後の抱負を話す井川病院長

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

3月15日～4月14日

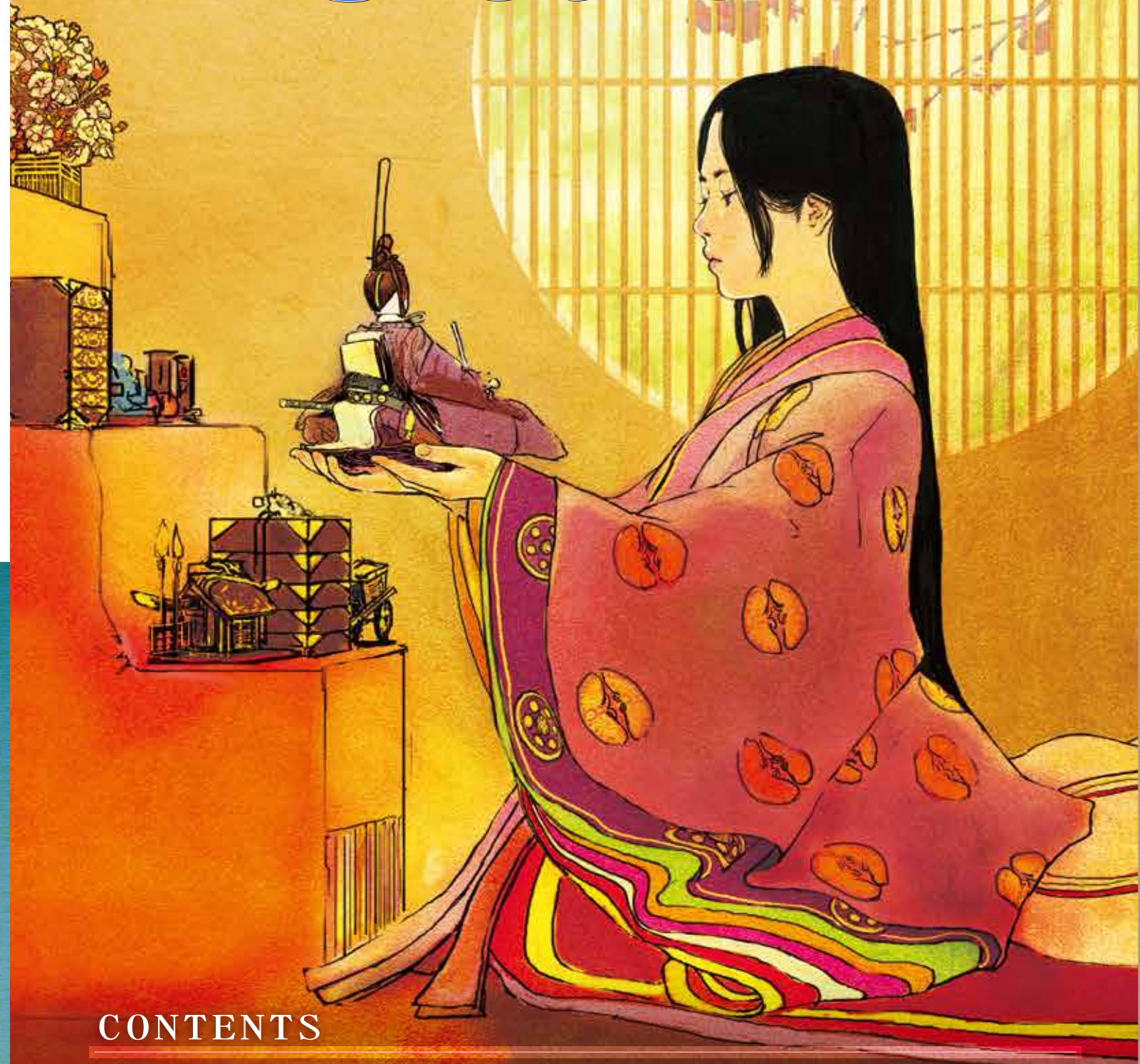
対象者：一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
3/15(水)	9:30～11:30	平成28年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん患者・家族サポーターセンター	一般	がん患者・家族サポーター
3/17(金)	15:30～16:30	平成28年度 第4回肝臓病教室	病院2階食堂(ラパン)	一般	島根県肝疾患 診療連携拠点病院
3/17(金)	16:30～17:30	平成28年度 第4回家族支援講座	病院2階食堂(ラパン)	一般	島根県肝疾患 診療連携拠点病院
3/18(土)	9:00～17:45	第12回日本医学シミュレーション学会学術集会	外来中央診療棟2階 クリニカルスキルアップセンター	医療	麻酔科
3/19(日)	9:00～16:05		ビッグハート出雲		
3/21(火)	18:00～19:00	緩和ケアセミナー 「がん患者の心理・社会面のサポート」	B病棟3階	医療	緩和ケアセンター
3/25(土)	10:00～11:30	島根大学市民公開講座 講演1「ワクチンってなに？」 講演2「病気を治そう：子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン) ～日本と世界の現状について～」	看護学科棟2階N21教室	一般	島根大学 研究機構 総合科学研究支援センター 実験動物部門

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



News



CONTENTS

- リンパ浮腫に対するスーパーマイクロ手術について
- 第1回院内災害訓練の報告会を開催しました
- 痙攣に対するボツリヌス毒素療法について
- 島根大学医学部における
研修会・講演会・セミナー開催情報



リンパ浮腫に対するスーパーマイクロ手術について

皮膚科 診療科長 もりた えいしん
森田 栄伸

リンパ浮腫とは、主として四肢に生じるリンパのうっ滞です。その原因のほとんどは、がんなどに対する外科的治療により、リンパ液の流れが悪くなることにより発生します。リンパ浮腫が発生すること自体は、外科的治療が適切に行われたことを示すものです。しかしながらリンパ浮腫は日本国内だけでも、年間約1万人が発症していると推測され、また一旦発症すると難治であり、圧迫療法などの保存的治療では十分な効果が得られない場合も少なくありません。

リンパ浮腫に対して、近年行われるようになった治療法が、“スーパーマイクロ手術”と呼ばれる“リンパ管静脈吻合術”です。四肢にたまったリンパ液を、その場で直接皮下静脈に流して心臓に戻す、つまりリンパ管と皮下静脈を吻合して人工的にバイパスを作成する手術です。リンパ管は太さが“0.5 mm”前後と非常に細いのですが、高倍率の顕微鏡や極細の縫合ナイロン糸などが開発され、このような細いリンパ管や血管が吻合できるようになりました。浮腫部に3cm前後の皮膚切開を加えて、顕微鏡下にリンパ管と皮下静脈を吻合します。非常に繊細な手技が必要ですが、出血はなく、局所麻酔で可能な手術です。このスーパーマイクロ手術は、患者さんへの侵襲はほとんどなく、また今までは考えられなかったような治療効果も得られてきており、世界中で広まりつつあります。

当科では、実績を積んだ形成外科医が対応いたします。この手術は保険適用される治療法であり、該当する患者さんがおられましたら、ぜひ当院へご紹介いただきますようお願いいたします。

問合せ先 皮膚科外来 TEL:0853-20-2382



前立腺がん術後の下肢リンパ浮腫に対するスーパーマイクロ手術の効果。両下肢が細くなった。



顕微鏡下にリンパ管と皮下静脈を吻合中



顕微鏡下にリンパ管（黄色点線）と皮下静脈（青色点線）を端側吻合している。矢印が吻合部位。

痙縮に対するボツリヌス毒素療法について

リハビリテーション部 副部長 さかい やすお
酒井 康生

脳卒中や脊髄損傷など錐体路障害の運動麻痺に付随する痙縮は、スパズムやクローヌスの原因となり、変形肢位が長期間続くことで関節変形をきたします(写真1)。その結果、移乗や歩行など動作の問題、更衣など日常生活動作の妨げ、オムツ替えなど介護時の問題、強い疼痛の出現など様々な問題を生じます。そのため痙縮を軽減させる処置が必要となりますが、ボツリヌス毒素療法は手技が簡単で痙縮軽減効果が得られやすく、安全性も高いため近年普及している治療の一つです。

ボツリヌス注射は、まず疼痛や変形の原因になっている筋肉を同定(図1)し、緊張の程度に応じた投与量を決定します(図2)。注射は的確に筋肉内に薬液を注入することが重要ですので、小さな筋や深部の筋は超音波などによるガイド下で行うのが確実です(写真2)。一般的に効果は3-4ヶ月とされていますが、個々によって差があり1ヶ月程度しか効果が持たなかったケースや半年~1年も効果が持続したケースなど様々です。ボツリヌス毒素療法の効果を活かすのは注射後のリハビリです。痙縮の悪化により手指が屈曲位のまま開けなくなった方が、ボツリヌス注射後、指が開きやすくなりピンチ動作が可能となったことで、リハビリの結果財布からのカードの取り出しができるようになったケースもあります(写真3)。

問合せ先 リハビリテーション部
TEL:0853-20-2457



写真1 左：肘屈曲、手関節掌屈、手指屈曲変形 右：内反尖足変形



図1 肘屈曲の主な関与筋

図2 ボトックス®投与量の計画	
上腕二頭筋	40単位
橈側手根屈筋	50単位
尺側手根屈筋	50単位
浅指屈筋	50単位
深指屈筋	50単位

写真1のケースに計画した投与量

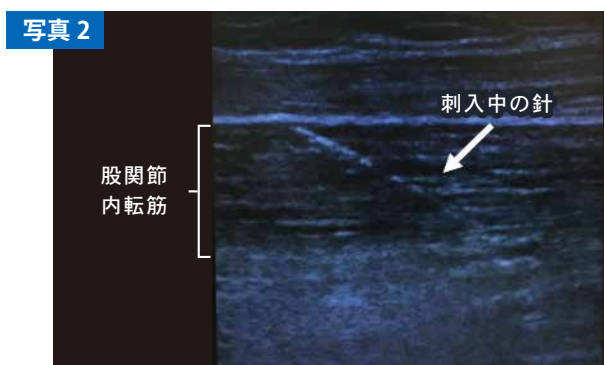


写真2 超音波ガイド下の施注



ボツリヌス療法による痙縮の改善
左：治療前は親指を伸ばすことができなかった。
右：治療後は親指を伸ばすことができるようになり、財布からカードを取り出しやすくなった。



島大病院ニュース 2017年3月

ご報告



第12回脳卒中市民公開講座を開催しました

神経内科 講師 おぐろ ひろあき
小黑 浩明

日本脳卒中協会島根県支部の主催によって一般市民167名をお迎えして、2月19日(日)「脳卒中の予防と克服!」をテーマに開催しました。脳神経外科 秋山恭彦教授に司会をいただき、前半は、小黑より「脳梗塞の病態と治療」と題し日頃の脳梗塞治療の取り組みと症状がおきてからより早期の受診で治療にいたることが可能であることをお話ししました。

続いて、脳卒中協会理事で三井住友海上あいおい生命保険勤務の川勝弘之先生からご自身の体験に基づくお話しをして頂きました。川勝先生は48歳の若さでご自身が脳卒中に罹患されるも、治療とリハビリで歩けるようになって社会復帰され、全国各地で脳卒中予防と病気とのかかわりについて講演されてきました。川勝先生より、脳卒中につながる5つの「過ぎちゃん」:食べ過ぎ、飲み過ぎ、吸い過ぎ(吸わないのが一番)、働き過ぎ、怠け過ぎ、がいけないこと、「正常化の偏見」といって、自分には病気は起こらない、自分だけは大丈夫という誤った考え方を捨てること。いつも「ACT-FAST」をこころがけ、Face:顔面麻痺がないか、Arm:両手のひらをあげて麻痺がないか、Speech:いろいろしゃべる、これらに異常あれば、Time:発症時間を確認し一刻も早く救急車を呼んで病院に向かう行動(ACT)をしようと。アクティブな毎日を送っている話や前向きに脳卒中予防の普及講演を続ける川勝先生に感銘をうけました。最後に会場の市民の皆様から、血圧測定の注意点など質問がたくさん出ました。会場は熱気に包まれ盛況のうちに今年も閉会しました。



島大病院ニュース 2017年3月

ご報告

高校生への肝炎特別授業を実施しました

肝臓内科 診療科長 さとう しゅういち
佐藤 秀一

島根県の肝炎啓発活動として「知って肝炎プロジェクト」というイベントが行われた際に、市内の高校8校すべてに、知って肝炎プロジェクトのスペシャルサポーターである若手音楽グループ「SOLIDEMO」のメンバーのひとり、手島章斗(てしまあきと)さんより、肝炎のことを知ってくださいというメッセージボードがわたされました。その流れを受け、出雲市内の高校との交流がはじまりました。その一環として、1月25日に出雲西高等学校の生徒170名あまりに対して、肝炎特別授業をおこないました。これから社会に出る高校生に、肝炎のこと、肝炎検査のこと、肝炎の予防法(B型肝炎ワクチン等)を知ってもらった事はとても重要と考えています。また授業前後でクリッカーを用いて、アンケートを行い、即時結果を生徒に提示しました。クリッカーを用いた授業も同高校でははじめてでした。この内容は島根日日新聞で取り上げられました。





島大病院ニュース 2017年3月

お知らせ

漢方外来を開設します！

臨床検査科 診療科長 ながい 長井 あつし 篤

当院では4月1日より、漢方外来を開設します。近年、漢方が全国的に普及する中、当院では漢方診療を希望される患者さんのニーズに十分に 대응できていませんでした。実質的には診療科横断的に漢方薬が用いられており、多数の診療科で漢方薬治療が必要な場面もあると思われるため、複数科の医師が外来を分担して診療に当たる予定です(担当表を参照ください)。

当院に通院される患者さんで漢方治療を希望される方や、漢方薬を試してみたいが、どこにかかったらよいかわからない方など、いろいろな場面が考えられると思います。当院の漢方外来では、漢方薬を用いた治療を希望される、全ての患者さんを対象としております。使用する漢方薬は、全て保険が適用されます。

漢方医学では、患者さんの体質や病気の状態を見極めて、その患者さんに一番適した治療を行います。そのために、脈や舌をみたり、おなかの状況を確認したり、といった診断を丁寧に行い、最適の漢方薬を処方致します。そして、西洋医学的な治療が必要な場合には、担当診療科への紹介を含めた西洋医学的治療を併用し調和を保ちながら治療を行います。

漢方治療を希望される患者さんがおられましたら当院の漢方外来をご紹介ください。

漢方外来		
診察 スケジュール	初診:第1・第3 火曜日 再診:第2・4・5火曜日 時間:9時～12時	初診・再診:第2・4木曜日 時間:9時～12時
外来場所 問合せ先	外来棟1階 外科外来 7診察室 TEL: 0853-20-2384	外来2階 臨床検査科 TEL: 0853-20-2381
担当医	宮本 信宏 胸部外科学会認定医、外科専門医 または 清水 弘治 外科専門医	長井 篤(2・4週目) 東洋医学会専門医/指導医、神経内科専門医、総合内科専門医、 脳卒中専門医、認知症専門医、臨床遺伝専門医、臨床検査専門医 または 和田 啓介(4週目) 小児科専門医



平成29年3月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2017年3月

ご報告

呼吸器・臨床腫瘍学 市民公開講座 「健康寿命を延ばすには？」 ～COPDについて～ を開催しました

呼吸器・化学療法内科 診療科長 いそべ 磯部 たけし 威

平成29年1月29日(日)、当院で市民公開講座「健康寿命を延ばすには? ～COPDについて～」を開催しました。

日常生活に制限のない寿命のことを健康寿命と呼びます。日本は長寿国ですが、平成22年時点で男性の健康寿命は70.4歳、女性は73.6歳と想像したほど長くありません。COPD(慢性閉塞性肺疾患)は、タバコが原因で生じ、慢性の咳、痰、息切れのために健康寿命が損なわれる病気の代表格です。COPDを知って、その予防、薬物療法と健康寿命を延ばすために食事療法と運動療法が今回のテーマです。第一部では、COPDとは～病態から治療まで～について、呼吸器・化学療法内科の濱口俊一助教、やさしい慢性閉塞性肺疾患(COPD)の食事のコツについて栄養治療室の久保田明子管理栄養士、ベッドと呼吸苦から飛びだそうにつ



助教 濱口 俊一 管理栄養士 久保田 明子 理学療法士 中隅 濃



会場は満席でした

いてリハビリテーション部の中隅濃理学療法士、の3名のエキスパートに解りやすい講義をしてもらいました。

第二部では個別の質問コーナーを設置して市民の疑問にしっかりお答えするようにしました。当日は59名の参加者があり、とても有意義な市民講座になりました。



平成29年3月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



眼科市民公開講座 「知っておきたい眼の病気」 ～白内障と糖尿病網膜症～

を開催しました

眼科 助教 高井 保幸
たかい やすゆき

毎年 2 月に身近な疾患をテーマとした市民公開講座を開催しており、例年 100 名を超える市民の皆様が参加されています。今年は、白内障と糖尿病網膜症についてお話しをさせていただきました。今年も約 130 名の市民の皆様が参加され、活発なディスカッションが行われました。

前半は、当科の原医師から、白内障の症状、診断、手術治療、眼内レンズの種類、先進医療である多焦点眼内レンズについて説明を行い、市民の皆様も大変興味深く聞いておられました。市民の皆様には、当院で行っている白内障治療の実際について詳しく知っていただくことで、これまで疑問に思っていたことが解決され、安心して白内障手術治療を受けていただけるようになったのではないかと思います。



後半は、私が糖尿病によって眼が受ける影響についてお話しし、それに伴う症状、検査法、治療法について紹介させていただきました。市民の皆様の中にも、実際に糖尿病網膜症で治療されている方がおられ、その方の治療体験をお聞きし、会場の皆様におかれましては、糖尿病網膜症をより身近に感じる事ができたのではないかと思います。

今回の市民公開講座も、たくさんの有意義な質疑応答ができ、眼科疾患の理解が深まるひとときとなりました。来年も、多数の市民の皆様のご来場をお待ちしています。

今回の市民公開講座も、たくさんの有意義な質疑応答ができ、眼科疾患の理解が深まるひとときとなりました。来年も、多数の市民の皆様のご来場をお待ちしています。

